

JRPみえばん  
百石

38  
1980.  
4.  
3.

伊勢市古市町  
東洋介  
百万石編集部

あの豚から  
アンポとエネルギー、  
パレビとKDDを  
想起すべきだ。



ウム  
絵になる  
絵になる



われわれがすでにもちあわせている、せまく小さな個人的な知識や体験  
だけで、激しく中絶し、変化し、発展していく現実を、大根をきりかた  
いにズバリズバリ手ぎわよく処理し、裁断できると思ふのは、わたしたちの思  
い上りというものです。そうした時々刻々変化し発展する現実の寸分を幅  
まの個人的な視野の中にとじこめてはならず、また現実というものは、われわれ  
の狭い視野の中にとじこめようとして、決してとじこめることのできるもの  
ではありません。

わたしたちが学習をナマケルならば、たちまちズレてしまうだけです。幅広い  
社会的な視野と展望の上に立って、多面的・多角的に現実を追求し、  
その本質へせまろうとするわたしたちは、たえず自己検証、自己反省の  
つみかさねによって、ともすれば固定化しがちな自分の視点、既成の知識や  
体験の中にアグラをかきかちな、ナマケが自分をつきやぶり、ぶちやぶて  
いかなければなりません。

リアリズムとはなにか、という一片の定義、一片の理論をきけば、  
すぐさま写真が写り、パロというくなる、などといった甘ったれた幻想はき  
く粉砕していかなければなりません。

今日、「絵になる、絵にならない」という写真家がともすれば「とらわれ  
やすい考えや、安直な姿勢を正すことは必要であります。現実をたえず  
写真家のために、写真にとりやすいよう、絵になりやすいよう立ちあわけては  
くれません。絵から現実をなめかめるのではなく、絵  
から出発するのではなく、現実そのものの本質的な追求に掘下げ  
から出発する。この原則的な態度をあきらめず投棄してはならないと  
思います。

絵になりにくいのは写真家にとってたいへん困難なことです。しかし、  
その困難さに眼をつぶり安直な逃げ場をもちめてはなりません。  
たとえいかに困難であっても、それに正面から立向っていくことこそ、  
本物の写真家魂だと思います。

写真家から人びとに伝え、許す文はなほ現実から身をさけ、その  
困難さに立向かわなければ一体誰がそれを訴えるのか。

たしに新聞記者やレポーターのように概念操作によって現実の本質  
へせまるとはちがって、視覚的にも印象深く表現し、伝達しつづける  
らぬ写真家の困難は十分理解できます。しかし反面から-----

### 視点才5回は終った 今醒めたままで12号論文を読む時

「舟さん 二本笑したるで 有名な12号論文読んでみる」と写真リアリズム12号を渡したのが運の盡き、

彼はスリポンになって熟読した。僕のような義理読みとは全然違うのだ。さあその後が大変、

こんなを錦のミハタと言はんかいな、12を読むと... 12によれば... 12の中に... と、一言ひとこと

枕二とは付きの論陣を張るのである。これには秀ったため、当方グウの音も出ない。

そこでやむなく僕もまた義理読みした。義理読みでも何度かめになると、ちよいとは

判ってくるのですな。 皆さん無理して読んだら。(ヨ-ヤ)



こころあたりで「イヤ  
やるといいよ、12号に  
は書いてあるよ。」

### 応募者の投書 視点展への切なる願い



応募がメカられてから 入選落選の結果が判明するまでのこと。私にはあまりに長い日々です。  
応募に当っては 所詮自分が入選するなどと大それたことは考えず ともかく精一杯の努力  
をぶっつけばよいのだと思っておりました。ちよと当落にはこだわらないつもりでした。

ところがどうでしょう。やっぱり待ち遠しいのです。入選なら入選でその喜びは満喫  
したいし、落選なら落選で捲土重来、来年度の視点展に向けて挑戦を開始したいのです。

聞くところによると 現在 大勢は既に決定し、上位 中位の入選は確定、後は  
展示効果によって ボーターラインの作品群の当落を決める由。

「展示効果による判定」については 私は十分に理解が出来ます。

視点展そのものが JRP 挙げての 一大ペラマ大組写真の展示会と思えば、そ  
の展示効果の大切さを思うのは当然です。大賛成です。

ここで私の提案を申し上げたい。

「展示効果による判定」に入る前に 一応それらをすべて入選として欲しいのです。  
入選の中から展示作品と非展示作品とが生まれても ちよと今までの巡回展作品  
とそうでないのがあるし なんの不眠症もないのと同じように 決して不自然でない  
と思ふ。一度皆さんのご意見をお伺いしたいと思ふ。

いすれにしても 当落の判明が遅いのは大へん憂うのです。

しばらく御無沙汰致しました。気分は悪くないですが、どうも体を動かすのが  
のです。春眠ののんびり。 視点展の入選発表があるそのとんとなく「エッセイ」の  
のりか、そんなや、こんなやで、せんなんことを一掃たてしよった気がするのです。  
大雑文(百万石用ではなく本部用の方)を書こうと思つてます(書いたらお見せ  
します) 八木さんに手紙書かんならんし(東海プロックのこと) 和ちゃんにも(撮影会)。

それ、この間の印象紙代払の忘れてました。切手で同封します。

息子の方は、予定通り浪人に決まりました。統一次が自分で思っていた  
より悪かったので、そう一度ちよせんじしたいということらしいです。親の方は  
〇が痛いですが、来年は「きり」をつけるということですから、あまり気にしない  
ようにします。河合じやくとやらに通うことに決まりました。

「百万石」の方は ほんのお茶をにごす程度で 御期待にそぐなくてすみません。  
そうぼろぼろ春眠からさめて、いろいろ動き出さねばと思つてます。ではまた。

しる後道抄

A子さんが「栄錦」をさかんに主張するが誰と関心も示さないので、  
「栄子の海」エッセイの方がずっと面白いのに。違つたかな。

みんなが自分で「しる名」を考へて登録したらと考へてみたが、さし  
当って僕が「石徹澄川」なんてどう、こんなふうになんかからきいて

「しる名」ばかり出てきて面白くないので、この考へは引込め  
ることにした。 スミオ

(後記) 12号論文は 写真リアリズム36号にて転載されているし、浦さん夫妻に申込むと 実費150円でコピーを 頒けてくれます。